

注意

この作品はファンによる2次創作であり

原作者様、出版社様、その他関係者様とは一切関係ありません。

個人が制作した非公式のものです。

すべてフィクションであり、実在の人物、団体とは一切関係ありません。

地雷等について

なるべくキャラ等は寄せているつもりですが、解釈違い等が一切ないとは言い切れません。

誤字脱字はご容赦ください。

初めてのことなので、コマ割り、トーン貼り、構図などわかっておりません。

バストアップばかりでかなり読みにくいと思います。

描き手のメンタルが作画にそのまま反映されるため、度々作画崩壊があります。

最初は不穏ですが最後はきちんとハッピーエンドです。それだけをご安心ください。

体調不良や、怪我などの描写は一切ありませんが、ゲが余命宣告されます。

余命宣告だけでも耐えられないという方は閲覧をお控えください。

病名、どうして余命宣告されたのかなどは特に決めておりません。かなりふわっとしてます。

なんか誰かに遅効性の毒盛られてとか、ご自由にお考えください。

途中で千が車運転します。

ドライバーはゲしかありえないと思う方は閲覧をお控えください。

千がたとえ話をします。

千の非合理的たとえ話を見たくない方は閲覧をお控えください。

三週間の賭け



3
週間だ

ククク…
安心しやがれ

3週間で薬を作る！

さすが
千空ちゃん

でもお薬は
いらないよ

その代わり

俺とデートしてよ

Kami kurodono Kikubara
Angen! Tsumiuchi kurodono
tsumiuchi kurodono
Wataridate Angen
go kuro
—chigyo
—chigyo
—chigyo
—chigyo
—chigyo



何言ってやる

浅霧幻

余命3週間

治療に専念しろ

じゃあ聞くけど
3週間ベッドで
治療したら

治るの？
ジーマーで？

まだわかんねえ

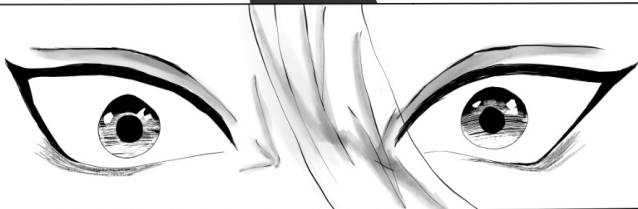
科学には
嘘つけないもんね

千空ちゃんは

俺は先に地獄で
待ってるからさ



今のうちにデートの
予行練習しておこうよ
千空ちゃん





今日は白衣
じゃないんだね

はい！
お昼食べよ！

杠が張り切ってたわ
体調悪化したら
すぐ帰んぞ



で

最近できたの！

ゴイスー話題なのよね

いんすた
グラム

ラーメンかよ

俺も行く...

石神ラーメン

塩

かそ

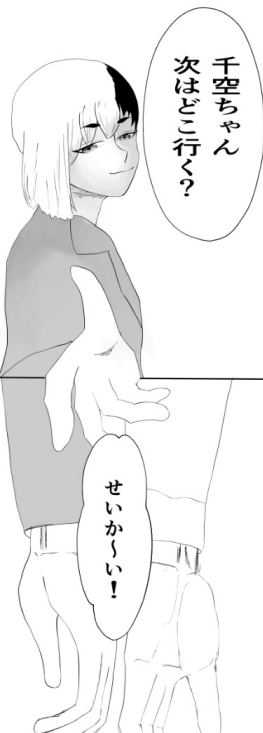
醤油

豚骨

とろと

いんし
ねこ

食事シーンむずすぎ
ごめんなさい





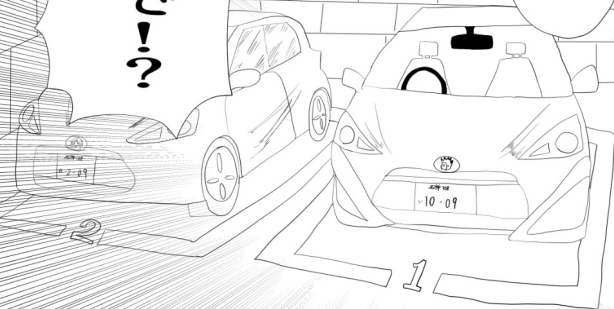
それなら

でも遠いの
電車で行かなきゃ



車で来てっから
問題ねえ

ジーマーで!?





千空ちゃん専属
ドライバーは

もう卒業だねえ

馬鹿なことやってんじやねえ
ほら着いたぞ
降りろメンタリスト

ありがとう千空ちゃん

見たかったんだよね
最期にゴイスーな
星空が



後悔とかは
ないんだけど



千空ちゃんが
これから作り出す
科学^{もの}を見られないのは



嫌だなあ



治せるかは
わからねえ



トラエラすんのにも
時間が足んねえ





だからゲン

テメーの人生を

テメーの全部を

俺とこの薬に
賭けろ



賭けるか？



うん

俺の人生
全部賭け



あと薬飲んだら
それつけやがれ

賭けに負けたら
もう一緒にいられないのに
それでも賭けるなんて
バイヤーすぎ

本気なの？
千空ちゃん



かまわねえよ

そんな時は
地獄で待ってろ



たとえ3700年
かつたとしても

必ず俺も
地獄へ行く



千空ちゃん
次はどこ行く？



せいかうい

だって
結婚一年記念日だよ



もう決めてんだろ

いいでしょ！
俺の人生
全部ギャンブルなの！

オメーギャンブル
好きだよな

帰ったら
こないだ買った
ゲームしょ！
負けた方が
お風呂掃除ね

あとがき？(ページ余っちゃった)

読んでくださって、本当にありがとうございました。
そして主催してくださった方、サークル名を考えてくださった方、
言い回しの添削をしてくださった方、
使い慣れないCLIP STUDIOの使い方を教えてくださった方、
そしてひたすらお尻を叩いてくださった皆さま
本当にありがとうございました。

原作の中で「地獄堕ち」を誓い合う二人を、どうしても噛みしめたくて
このお話を書きました。
また、わたくしハピエン厨なのでどうしても二人を幸せにしたいくて
このような結末にしました。

余命3週間という設定は、とある映画からインスピレーションをいただきました。
ただ、展開はまったく異なりますので、よければそちらもぜひご覧ください。
「余命3週間 映画」で出てきます。

初めての創作で、コマ割りもトーン貼りもわからないことだらけでしたが、
気づけばほぼバスタップばかり描いていたりと試行錯誤の連続でした。
それでも、自分の中ではとても楽しく、宝物のような時間でした。

あとがきまでお付き合いくださり、心から感謝いたします。
ここまで読んでくださった方、本当にありがとうございました。